日本歯科大学新潟病院・医科病院と患者さんをむすぶ

日本歯科大学（新潟病院 医科病院）アイヴィ通信

Vol.17
2012.10.1

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

〝親子歯科〟を始めました

小児歯科
准教授　島田　路征

〝子は親に似る〟と申しますが、お口の中も色んな意味で親に似ます。遺伝的に似る場合もあれば、生活環境が同じであるからという場合もあります。何より虫歯や歯周病は感染症ですので、原因菌が親から子どもに感染するケースもあります。そのため虫歯が多いお子さん、歯周病があるお子さんを持つ親御さんも、実はご自身のお口の健康について悩みがある場合が少なくないと思われます。この事からお子さんのお口を守るには、まず身近な親御さんからというのは、当然の成り行きと言えます。また、健康ブームと言われて久しい昨今ですが、お口に関しては悪くなってから、慌てて歯科を受診される場合がほとんどなのではないでしょうか？特に親御さんともなれば、仕事に育児に大忙しでついつい、自分の事は後回しになったりしているのではないでしょうか？

悪くなってから歯科を受診すると、何回も通院が必要だったり、高額な医療費がかかったり、多くの負担を体験する事になります。そこで小児歯科では、お子さんのお口の健康を守る観点とお忙しい親御さんのお役に立つ様に考え〝親子歯科〟を始めました。

主な内容　1．虫歯や歯周病の検査　2．歯磨き指導　3．定期診査
※歯科処置に関しては他診療科を紹介させて頂く場合があります。

当病院は原則として予約制になっておりますので、興味のある方は是非ご一報下さい。尚、これからお父さん、お母さんになる予定の方、現在妊娠中の方も是非、ご利用下さい。

くすりの進化と変化
ー薬の疑問を考えるー

●日本歯科大学 新潟病院・医科病院
薬剤科長　竹野　敏彦

現在、病院や診療所で使われている医薬品や、ドラッグストアーなどで売られている医薬品のほとんどはこの50年余りの間に開発され、そして毎年新しい医薬品が登場しています。そこで、医薬品がどの様に発展してきたのか、今後どのような医薬品が考えられているのか、医薬品の正しい使い方や歯科に関連した副作用などについてお話させていただきます。

医薬品に関するアンケート結果が報告されました。「どのような薬を望みますか?」という問いに対しての解答が、「そんなに強くない、副作用の少ない薬」でした。ということは、「効く薬」は「強い薬」で副作用が心配ということが分かりました。

これまでドラマやアニメなどでも薬が登場したことがあります。最近ではドラマ　JINー仁ーでの「ペニシリン」です。多くの尊い命を救う薬ですが、強いアレルギー反応であるアナフィラキシー症状を発症し命が危険にさらされることもあります。薬を示す「medicine」という言葉の意味の中にも「医学、薬・薬物、魔法、まじない」などの意味を持つことから、昔はまじない的なところもあり、よく分からない不思議な部分もあったようです。しかし、現在では薬事法という法律で厳しく規制され管理されています。医薬品開発も臨床試験（治験）を通して厳しく調査され、「効果」と「安全性」が確認された成分が医薬品として承認されています。

薬の開発はアンケート調査からも分かるとおり、効果の増強と、副作用の軽減が大きなテーマとなっています。現在ではよく知られている「アスピリン」という薬があります。柳からの抽出された成分の1つです。19世紀中ごろにその成分としてサリチル酸が発見されリウマチ患者の炎症を抑えるために投与されました。しかし、サリチル酸は効果があったものの、胃腸障害が強く現れました。そこでこの副作用を軽減するために研究行われ、フェリックス・ホフマンによりアサセチルサリチ

ル酸（アスピリンのことです）が19世紀末に開発されました。そして現在でもアスピリンは多くの患者に投与されていますし、一般用薬としても販売されています。しかし、サリチル酸からアセチルサリチル酸となって副作用が軽減されても副作用なくなったわけではありません。副作用をできる限り抑え、確実な効果を期待するには薬剤師からの説明や、添付文書（効能書き）の内容をきちんと理解して服用することが大切です。

この添付文書は先にも出てきました薬事法という法律に基づいて作成されています。添付文書に書かれている内容は、厚生労働省において承認された内容、「効能･効果」それに伴う「用法･用量」や「副作用」に関することなどが記載されています。アスピリンは痛み止めという印象が強いですが、心筋梗塞、虚血性脳血管障害（脳梗塞など）に対する血栓･塞栓形成の抑制にも投与されています。よく言われる「血液を固まりにくくしてサラサラにする薬」です。ですから、手術する場合には出血が問題になりますので中止する場合が多いです。歯科での抜歯ですが、多くの場合アスピリンを中止せず、出血の状況を確認し対応しています。

医薬品には飲み合わせの問題もあります。薬同士だけでなく、サプリメントや食品などとの飲み合わせも問題となることがあります。脳梗塞などの予防に投与されますワルファリンは納豆、クロレラ、青汁などを多くとると、ワルファリンの効果が減弱し塞栓（血管が詰まる）を起こす危険性が高まってしまいます。そのため処方する医療機関から患者へ、これらの食品に対する注意の説明が行われます。

歯科に関連します医薬品の副作用として最近問題となっているものに「骨粗鬆症」に使われていますビスホスホネート薬があります。これは、ビスホスホネート薬を服用中の患者さんが抜歯により「顎骨壊死･顎骨骨髄炎」の発症が増えるという報告が出され、添付文書にも注意するよう記載が追加されました。これは服用だけの条件でなく、口腔内の衛生管理も関係しているようです。ですから、ビスホスホネート薬を服用されている患者さんには服用をしていますというカードを渡すよう厚生労働省から指示が出ています。歯科に受信される患者さんでは、ビスホスホネート薬を服用している場合はこのカードを提示していただくか、お薬手帳などを提示していただくことにより、安全な歯科治療を行うことができますのでご協力をお願いいたします。

副作用に気づきにくいものもあります。それは口の渇きです。アレルギー治療剤や抗うつ薬、排尿障害（頻尿等）の薬剤も口の渇きを起こすことがあります。おかしいと感じたら専門外来の「口のかわき治療外来」へ受診し診断していただくことをお勧めします。

医薬品の効果は高まっています。しかし、副作用がないものはありません。服用する時には薬剤師、医師、歯科医師から注意点をしっかり確認し、安全な薬物療法ができるよう心掛けることが必要です。

クスリのコダマ 第6回育児まるごと応援フェア

●小児歯科
准教授　島田　路征

本院の地域歯科保健医療支援活動の一環として6月14日日曜日に新潟地域産業振興センターにて開催された「クスリのコダマ第6回育児まるごと応援フェア」に参加しました。このイベントへの参加は5回目で、「むし歯なりやすさチェック」と題したブースを設置し、RDテストという簡便にむし歯原因菌の数が調べられる検査を行いました。本院の歯科医師とボランティア参加の学生さんの活躍もあって、昨年と同様に当ブースは大変好評で赤ちゃんから大人まで大勢の親子連れが検査を受けていらっしゃいました。さすがは全国でも指折りの子どものむし歯が少ない新潟県だけあって、親御さんのお口に対する関心の高さが伺えるイベントでした。また、当日行われたFM PORTの公開生放送では、う蝕予防にお話しをさせて頂きました。かなり緊張しましたが、育児に追われているお母様達に少しでもお役に立てたらと思います。来年度も同様に開催される予定です。当大学も参加予定です。ご興味があれば皆さんお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。

健口快食サポートコーナーを開設します!!

最近ではスーパーやドラッグストアで歯ブラシや歯磨き剤、洗口剤などたくさんの製品を選ぶことができるようになりました。それぞれとても目をひく効能が書かれており次々試してみたくなります。実際使ってみると実は…歯ブラシの硬さが思い通りでなかったり味が苦手だったり　といったご経験がどなたもおありなのではないでしょうか?またお店に行くことができない介護を必要とされる方は日常のお食事や補助栄養食品の選択にも迷われることと思います。健口快食サポートコーナーではみなさんのお口の健康と快適な食事のために歯科衛生士、管理栄養士がよりよいアドバイスをいたします。プロが選んだ実際の製品を見て、触れて、味わってお試しください。

病院で働く人々

第9回 hospital specialist

「中央検査科」の 長谷川 やすえ です。

中央検査科は医科病院の外来部門に隣接した位置にあります。

そこで働く私たちの名称が臨床検査技師です。病院など医療機関において様々な検査を行う専門技術者の名称になります。古いお話ですが、臨床検査技師の身分法が法制化される以前（昭和20年代）は医師が自ら診断の為に検査を行っていました。その後医療の分業化と検査の高度化が進み検査を専門業務とする技師の存在が確立されました。

当科では新潟病院と医科病院の両方の施設から患者様の検査依頼を受けています。その他に人間ドック、企業健診、職員健診、本大学学生・短大学生を対象としたワクチン接種前後の検査なども行っております。又、以前にこの紙面にてご紹介させて頂いた手軽な検査目的の“検査¥500”も受診者から好評で、リピーターも増え、利用者数は堅調に推移しております。ご興味を持たれましたら是非一度利用されては如何でしょうか。

私たちの仕事である検査業務は、患者様から得られた材料（検体:血液、尿など）を用いた検体検査と、患者様に直接触れて行う生理検査に大きく区分されます。診療前検査の日常化と検査項目の増加に伴い機械化が進み、微量の検体で30分~1時間程度で結果を出すことが出来ます。更に9月1日より科内オンラインシステム化が整い早く正確な報告が可能となりました。より付加価値のある報告書発行を目指し奮闘中でもあります。

その一方で技師の習熟した技術が要求される検査項目も数多くあり、スタッフ一同「真理探究」をモットーに仕事にやりがいを感じながら自己研鑽に日々努めています。

検査材料を通して生きた人間につらなる検査をしているという自覚を常に持ちながら、痛みを抱える患者様への共感の心を大切に日常業務に取りくんで行きたいと思っています。

生理検査や採血業務等でお会いする機会があると思いますが、検査に疑問を持たれたら気軽に声がけして下さい。尚、検査科前にはスタッフ手作りの検査情報リーフレットを各種用意しておりますのでこちらも御利用して頂きたいと思います。

新潟病院 臨床研修歯科医師のコラム

第15回 入れ歯のお手入れ方法 ～末永く入れ歯を使うために～

総合診療科3
●南部　貴之　●飯野　華絵　●本間　泰明

皆さん!入れ歯を使っていますか?洗っていますか?身近な入れ歯ですが、意外とお手入れの仕方はわからないものですよね。お手入れをすれば入れ歯は長持ちします。今回は入れ歯のお手入れについてご紹介したいと思います!

＊入れ歯のお手入れ方法は?

お手入れのポイントは、義歯ブラシと義歯洗浄剤を両方使うことです。

①入れ歯を外して汚れを確認しましょう。

②入れ歯を外して義歯用ブラシで洗いましょう。入れ歯を落として壊してしまわぬよう、水を張った器の上で行ってください。水の中にタオルを敷くとよいでしょう。入れ歯の内側やバネの部分も忘れずに洗いましょう。
ただし、歯磨き粉は使わないでください。入れ歯に小さな傷がついてしまいます。

③お口の中も掃除しましょう。入れ歯を外したお口の中をやわらかい歯ブラシ、布でお掃除してください。歯ぐきや舌へのマッサージ効果があります。バネのかかる歯や、歯ぐきの汚れにも注意しましょう。

④時々義歯洗浄剤を使いましょう。
口内炎や、カンジダ(カビの仲間)の予防に効果的です。

＊入れ歯安定剤は使った方がいいの?

入れ歯が外れやすくなった。かむと痛い。食べ物が中に入るようになった。

このような症状が出た場合、入れ歯が合わなくなってきていると考えられます。早めにお近くの歯医者さんへご相談ください。入れ歯安定剤を使ってもよいですが、症状は一時的にしか改善しません。入れ歯安定剤は、急場しのぎであると考えてください。

参考になったでしょうか?入れ歯のお手入れは快適な食生活にもつながります。是非実践してみてください!

編集後記

■ようやくさわやかな秋を迎えました。新潟は快適な季節が短くあっという間に冷たい冬がやってきます。数年、だんだん寒さが身にこたえるようになってきています。悲しい…その前においしい秋の味覚でパワーを蓄えないと!!!でも蓄えすぎてその後がもっと悲しい…(池)

日本歯科大学新潟病院・医科病院
アイヴィ通信
Vol.17 2012.10.1
発行日／平成24年10月1日　発行人／関本恒夫　五十嵐文雄
〒951-8580　新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代)　FAX 025-267-1546(支援室直通)